

## 下坂厚の写真日記 特別版

本誌の「下坂厚の写真日記」のコーナーに、素敵な写真を掲載していただいている下坂さん。この7月末で西院デイサービスセンターのケアワーカーの仕事で退職され、若年性認知症の啓発活動が当事者である自らの「役割」と考えて、写真やトークを通じて直接社会に発信する取組に力を入れる道を選択されました。8月からは新たに協会と業務委託契約を結び、記録、広報用写真の撮影を始めとする広報活動等の業務に就いておられます。

9月は世界アルツハイマー月間。多方面からの求めで、下坂さんの活動も多忙なものとなりました。「記憶とつなぐある写真家の物語」の「巡回展」が、京都府下と滋賀県大津市の計8か所で開催され、舞鶴市と大津市では、「巡回展」にあわせてトークショーなどの時間も持たれました。また、左京区岩倉地域でのネットワークを基礎にして開かれた講演会や、テレビ出演など、今号では下坂さんの活動に焦点をあて、それぞれの様子を紹介するとともに、私たち自身を振り返る学びの機会にもしたいと思います。



9月3日(土)

舞鶴赤レンガパーク4号棟 トークショーの様子

## 虹のように

9月3日(土)、舞鶴赤れんがパークで、舞鶴市主催の「記憶とつなぐある写真家の物語」の「巡回展」が開催され、その中のイベントとして下坂さんのトークショーが行われました。

朝から開かれた「巡回展」では、下坂さんが撮った日常風景や人物など30点あまりの写真パネルが展示され、多くの方々が訪れ、訴求力のある作品に魅入っていました。中には、私たち協会職員にはなじみのある西院デイサービスの「sitte」の活動に取り組んでいるご利用者の写真などもありました。



## 9月3日(土) 舞鶴市/巡回展・トークショー

午後には、「若年性認知症の僕から伝えられること～記憶とつなぐ～」と題して、舞鶴市高齢者支援課の保健師の方の質問に答える形で、1時間のトークショーが行われました。

認知症の診断を受けたときの「人生終わった」という絶望感、認知症初期集中支援チームの援助で西院デイサービスセンターを紹介され、ケアワーカーとして関わってきたこと、さまざまな人の話や介護現場の経験を経て、認知症になってもできることはたくさんあることを学び、正職員として働く機会を得た喜びなどが語られました。現在は協会との新たな業務委託契約による仕事をはじめたところ。若年性認知症の当事者として社会に発信し、同じ境遇の人へのピアサポートも行い、多くの人に認知症になっても「人生終わりじゃないと伝えたい」と話されました。

締めくくりに、「虹」の写真を示して(上の写真)、「きれいな虹は、雨が降り、その後に太陽の光があってこそ見ることができるとの趣旨の話がされたのがとても印象的でした。

## 働くということ



【左から、中野さん 数井さん 下坂さん 来島さん】

9月14日(水) 20:00~20:30、NHKのEテレ「ハートネットTV」が「認知症×就労(2)／認知症とともに働くということ／働き続けるためのヒント」という内容で生放送され、高知大学教授の数井さん、東京都若年性認知症支援コーディネーターの来島さんとともに、下坂さんが当事者として出演されました。

「仕事とは何ですか?」という中野キャスターからの最初の質問に対して、下坂さんは「生活手段であったのが、認知症と診断されてからは、働くことで社会とつながることができて、生きていくための何か大きな目標、やりがいみたいなものと思えるようになった」と答えられました。番組は、認知症の方の就労支援に関して、3つの大きなテーマ(①職場のサポート／②新たな職場で働く／③ソフトランディング)に基づいて展開されました。

## つながる人々

京都市岩倉図書館が主催し、京都市岩倉地域包括支援センター(以下、岩倉包括)の運営協力で、いわくら病院において下坂夫妻にお話を聴く会が「ひとあし先に認知症になった私からあなたへ」と題して開催され、60人余りが参加しました。

岩倉包括の松本センター長が、下坂さんご夫妻から、いろいろと聞き出すというかたちで始まり、いきなり認知症を軸としたご夫妻の関係性についての話題に。

佳子さんが厚さんに時々投げかける「私のこと分かってる?」という言葉。厚さんは、「私はきついが、奥さんもきつい。一緒に背負っているんだなということを実感している」と。心配はかけたくないという思いがあり、いろいろなことがつい事後報告になりがち。佳子さんはこれに不満であるものの、「日々不安もあ



下坂厚さん

下坂佳子さん

## 9月14日(水) NHK Eテレ／ハートネットTV

以下、各テーマに関して下坂さんのコメントを紹介します。

①**職場のサポート**／「やりにくくなったこと、できなくなったことを取り除くのではなく、やりたいと思うことを一緒にしてもらえるようなサポートがあればうれしい」「ヒアリングのように形式的に聞くのではなく、日常の会話の中で、さり気なく本人の気持ちをくみとってほしい」

②**新たな職場で働く**／「新しいところで新しいことをするのは最初なかなか難しかった」「認知症の診断を受けて、これから第二の人生を送るんだという気持ちで何とか頑張ってきた」「介護現場という認知症にも理解のある職場で、自分が新しく出会った方と仕事ができるのは新鮮であった」

③**ソフトランディング**(「これから先のことは?」という質問に対して)／「週5回ケアワーカーとして働き、休みに講演活動をしていましたが、このままケアワーカーを続けていくのが幸せなのかを考えた」「今しかできない講演活動をメインでやりたいと考え働き方を変えた」「今自分がやりたいこと、自分の気持ちを優先した」

下坂さんの言葉は、一つひとつが当事者としての表れで、視聴者の胸に迫ってくるものでした。

番組内では「認知症の人が働きやすい職場」の条件として「①認知症への理解／②効率を第一に求めない／③障害者雇用の実績／④自宅から迷わず行ける」が挙げられていました。

福祉の仕事に携わる者として、多くの気付きがある内容であったと思います。

## 9月16日(金) 岩倉図書館／講演会

るが、毎日を大切にしてくれたらと思う」とも。進行役の松本さんは、「奥さんだからこそ聴ける、私は聞けない、奥さんの愛情だと思う」とまとめられていました。

認知症になって感じていること、見える景色について。「魚屋をやっているとき、仕事は生活手段であり、売り上げ、営業成績重視になりがちだった」、「認知症になってから介護の仕事に携わり、高齢者の姿を日々間近でみるようになって、毎日生きているだけで幸せなのだ気付いた」、「周囲の人々の支え、人とのつながりがありがたいと感じられるようになった」と何気ない景色の中に大きな気付きがあったと話されました。

これからについては、西院デイサービスセンターでの経験を糧としながら、講演やピアサポートなど、社会的な発信をする活動を大事にしたいとの思いを述べられていました。

このような社会的活動に重きをおいた「生き方」に関して、佳子さんは「丹野さん(宮城県在住で、同じく若年性認知症を公表しながら、仕事を続け、社会的発信もしている、ある意味で「先輩」のような方)に出会ったことが大きかったんだと思う」と。

この日は、同じく若年性認知症で、同じ当事者として厚さんと2年間のつきあいがある奈良のHさんも会場に。

この日の進行役だった岩倉包括の松本さんも含めて、厚さんとつながり、いろいろな意味で支え合う人々の自然なネットワークの一端が垣間見えた講演会でした。

写真に込める思い

9月22日(木) 大津市/巡回展・ギャラリートーク

大津市では、9月15日(木)から22日(木)まで、大津市立図書館において「巡回展」が開催され、最終日の午後に視聴覚室で下坂さんのギャラリートークが行われました。

下坂さんが撮った何枚かの写真を見ながら、大津市の長寿政策課の職員の方が、下坂さんに質問していく形式で進められ、作品に込められた思いが語られるなど、興味深い時間となりました。

以前は花や風景を撮ることが多かったが、認知症になってから「人」の写真が撮ることが多くなってきたといいます。風景写真にも、遠くの方に人を入れたりするようになった。認知症になって出会った人や景色が以前と違って見えるようになったとも。

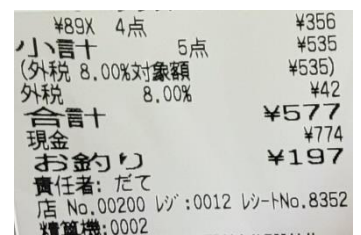
上の写真は、認知症の夫の車イスを押す妻を撮られたものですが、視線に「人」へのいとおさが感じられます。今後の活動としてピアサポートも積極的にやっていきたいとの思いも語っておられる下坂さん。「人」へのまなざしが強く、そして温かくなっているようです。



仕事の帰り/運命の分かれ道みたいのが(笑)/片方は近道で、片方は遠回りなのでどっちを選んでもなんとか家にたどりつけるから間違いではない/バスを乗り間違えたり降りるところを間違えてもどうにかこうにかたどりつけたらいいやん!と自分に言い聞かせる(笑)/家に帰って“遅かったね”と言われたら“ちょっと寄り道してた”と答える/それが日常



買い物の合計が 577 円/だけど、認知症になってから簡単な計算が難しくなつてわからないのでレジの機械に財布の小銭全部入れる/774 円 /足りたかな? /いつもこんな感じ認知症は物忘れだけではないんやね/PAYPAY とかキャッシュレスだと助かります(笑)



認知症の「ありのまま」を伝えたい

9月22日(木) NHK 京都/京いちにち



返し話されている『認知症になってもできることはある』という強い思いが伝わってくる内容でした。

■福祉従事者として

「できないことではなく、できていることに着目して支援する」というのは頭で理解し、支援しているつもりでも、知らず知らずのうちに「できない人」「わからない人」とレッテルを貼って、視野が狭くなっているのでは?とヒヤッとさせられるものがありました。もちろん、ご利用者は一人ひとり、症状も状況も違いますが、支援者としてご利用者をどれだけ知り、思いを汲み取れているのか、認知症ではなく、

9月21日(水)は、世界アルツハイマーデー。これにちなんで9月は「世界アルツハイマー月間」と定められ、各種啓発が行われています。NHK 京都でも、9月22日(木)放送の「京いちにち」内で、当事者である下坂さんの活動や思いを取材した6分間の映像が放送されました。

■放送では

「不安はなくならないけど、一人じゃない」「治すことはできないけれど、でも楽しく前向きにそういう気持ちを共有することはできる」「同じ症状の人たちが前向きになるようなきっかけになれば」と話す下坂さん。トークショーや他の発信の場でも繰り

ちゃんと「人」が見えているのか、改めて日頃の関わり方を考えさせられる映像でした。

今回の取材では、西院デイサービスセンターでの様子も取り上げられました。広報委員会として、これからも下坂さんの思いを伝えていくと同時に、職員として、身近にいる当事者の方とどう向き合い、何ができるのか、常に考えていきたいと思えます。

NHK NEWS WEB サイト内で動画が見られます。2か月間は視聴可能です。見ておられない方は是非、ご覧ください。



## 読者の皆様へ

少子高齢化が顕著な現在、国も元気な高齢者には働く環境を作る必要性を示唆しています。一方で、私のように若年性認知症を発症する人の割合も少なくはありません。これからは、認知症になってもまだ働きたいという人に、できる限り働き続けられる環境をつくっていくことが重要になります。当協会は、高齢者福祉を主としているプロだからこそ、十分な気配りや工夫ができるはず。だからこそ、職員が自分の意志で、できる限り働き続けられる環境づくりにも尽力してもらえると期待しています。是非、研修やイベントにお声かけいただき、実際に認知症を体感し、学び、業務に活かしてほしいと考えています。

ここ数年は、よくも悪くも、コロナ禍という状況であれもこれも「できない」ことが当たり前になっていました。コロナ禍で入職した職員さんは、さまざまな行事が中止になりご利用者と一緒に楽しむという本質を感じにくくなっているように思います。だからこそ、職員が自由な発想で意見を言える環境をつくり、やってみようと言い合える仲間づくり、それをやれる環境づくりを意識して、事業所の垣根を越えて交流する場を増やすことで、職員・事業所間で切磋琢磨しながら、より魅力のある法人に成長していけるのではないかと期待しています。

## 下坂厚さんに聴きました



下坂さん お気に入りの一枚

オンラインによる内定者交流会にもゲストで参加しました



## 多様性を認め合い受容する時代に

## 広報委員会

広報委員会では、アソシエをより持続性のあるものにするために、今年度の編集方針と編集体制を、次のように改めました。

①発行頻度を毎月発行から奇数月の隔月発行に改め、必要に応じて臨時の増刊号等を随時発行する。②掲載内容を、各事業拠点の取組状況等の記事を中心とするものから、協会の共通課題等に関する特集記事等を中心とするものに改める。③写真掲載を増やし、臨場感を伝える。④これに伴い広報委員会体制を強化する。

体制については、今号特集の主人公である下坂厚さんも含めて増員、強化が図られました。

協会は、正職員のほか、嘱託職員や契約職員、登録ヘルパー、委託業務の従事者など多様な人材の働きで成り立っています。下坂さんは、若年性認知症当事者として「協会で働く多様な人材」のひとりであり、協会の仲間です。働くかたちは、正職員から委託契約に代わりましたが、得意の写真撮影と認知症啓発の社会的発信に力を入れたいという本人の希望に沿ったものでした。

今回の臨時増刊号は、ダイバーシティ（多様性）とインクルージョン（包摂）の時代に、彼の活動の一端を紹介し、彼の「生き方」や当事者としての思いを知り、理解することを通して私たち自身のあり方を振り返る機会にもなるのではと考え編集しました。

9月の下坂さんは、今号で紹介した以外にも、認知症の人と家族の会主催の講演会や埼玉県での講演会、読売テレビでの放送、新聞記事で取り上げられるなど多忙でした。また、写真展は11月13日（日）に本能文化祭で締めくくられる予定です。11時からトークショーもありますので、是非、ご参加ください。

### 広報委員会の体制

2022年10月1日現在

役職	氏名	部門	所属等	備考
広報委員長	居内 学	児童	事業本部準備室／児童福祉部長	継続
広報副委員長	岩本 雅子	施設	施設本部／総務担当部長 人材管理室準備室／職員採用部長	継続
広報委員	沼田 康史	居宅	居宅本部／人材開発部長	継続
広報委員	岡本 武尚	居宅	朱雀事務所／統括責任者	継続
広報委員	喜瀬 高宏	居宅	居宅本部／統括責任者 事業本部準備室／統括責任者	新規
広報委員	藤田 幸弘	居宅	朱雀事務所／統括責任者	新規
広報委員	吉川 亜矢	施設	施設本部／事業部長 事業本部準備室／施設福祉担当事業部長	継続
広報委員	西尾 久美	児童	明德児童館／館長	継続
広報委員	村木 容子	児童	錦林児童館／児童厚生員	新規
広報委員	下坂 厚	委嘱	業務委託／広報用写真撮影業務等	新規
事務局員	小川 恵子	施設	施設本部／総務担当課長 人材管理室準備室／職員採用課長	継続

(注)「所属等」は異動により変わる場合があります。

